

前田 秀文 議員

岩ヶ池公園の整備状況について

「自然と身近にふれあえる空間を創出」

問 岩ヶ池公園の整備状況はどのような状態か。

答 今年度までに、地域の人々と高速道路利用者の出会いの場である第1期整備区域及び自然を活かし人々が気楽に立ち寄る遊びの空間である第2期整備区域が供用開始されている。

問 将来的に池に浮かぶ弁天島に赤い欄干の橋をかけ、親子連れが渡る姿を観光車から見ることができれば非常にすばらしいと思われ要望したいが、今後の第3、4期整備における課題等はあるか。

森田 健資 議員

一味も二味違う刈谷っ子の育成

「子どもたちの豊かな才能が開花するような教育を展開」

問 運動会はまだ残暑のある時期に行われるため、気分を悪くする子も多い。少しでも時期が遅くなれば、ずいぶん違うと思うが変更はできないか。

答 暑さを配慮するよう各学校に依頼したことで、今年度は10月に実施する学校が多くなっている。今後も万全の配慮をするよう指導していきたい。

問 家庭でのテレビを見たりゲームで遊んだりする時間に対し、学習時間はどれくらいか。

答 小中学生ともテレビやゲームをする時間に比べ学習時間が短い。

問 目標を決めさせ、学習復

神谷 昌宏 議員

妊婦健診完全無料化で、充実した刈谷の福祉を実現

「健診項目追加で県下の調整が進めば、実施を検討したい」

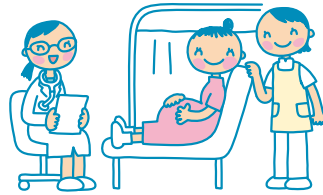
問 平成20年4月より今までの7回分から14回分に妊婦健診

の無料化が拡充されたが、実際には追加の検査等により自己負

担が生じている。なぜか。

答 健診では1回目に基本健診と梅毒・B型肝炎検査、2回

目以降は基本健診のみとなるが、病院によっては子宮がん健診などを勧める場合も多く、自己負担が生じている。これは県と県医師会が定めた健診項目で全市町村が実施しており、その



清水 行男 議員

都市計画における線引きの見直しについて

「刈谷市の必要とする人口フレームを確保できるよう県と調整」

問 刈谷市の人口は10年後には約1万人の増加という想定にもかかわらず居住系市街地の面積は縮小されるが、どういふことか。

答 今回の見直しにより居住系面積は縮小するが、平成9年度から平成19年度の10年間で84ヘクタールが住宅地として土地利用が転換されたので現在までの増加人口は吸収できている。

問 計画目標人口に対して今後、必要となる居住系市街地

領域面積はどのくらいか。

答 今後増加する人口をすべて市街化区域に配分し人口密度を1ヘクタール80人と仮定する

白土 美恵子 議員

自販機に公募制を導入し、自主財源を確保

「他市の導入結果を参考に検討していきたい」

問 県では自動販売機の設置に競争入札を導入し、庁舎内の

他の項目については無料実施ができていないためである。

問 追加の検査分を市の負担で完全に実施した場合どれくらいの負担となるか。

答 現在1人14回で約85,000円の委託料が11万円となり、総額で約3、700万円の追加が必要となる。

問 非常に充実していると言

われる刈谷市の福祉を名実ともに実現するためにもすべて市費で負担して、14回完全無料を実施してほしいがどうか。

答 国が示す標準的な健診内容で実施するよう県医師会から要望があるが、妊婦健診の無料化は子育て支援として重要であるため、健診項目を追加する方向で県下の調整が進めば、実施に向け検討していきたい。

問 刈谷市都市計画マスタープランでは将来の市街化区域の予定地が明記されており、保留フレームをしっかりと要望すべきだが、どう考えているか。

答 現在、都市計画マスタープランを改訂中であるが、上位計画である県の都市計画区域の整備開発保全の方針で設定される人口フレームのうち、刈谷市の必要とする人口フレームが確保できるよう、県と調整を行いながら、将来の土地利用の実現に向け、取り組みをしていきたい。



新たな財源として今後検討

2台分の入札では、従来の70倍の金額で落札されたと聞くと、本市における設置台数と売上高はどのようになっているか。

答 現在80台設置されており、最高売上高は約600万円、平均では約170万円である。

問 本市の使用料はどのよう

になっているか。

答 以前は定額であったが、21年10月から屋外は18,000円、屋内は

30,000円にそれぞれ売り

上げの5%を加算した額として

問 使用料を改正したことにより収入に影響はあったか。

答 全体でおよそ400万円の増収となると見込んでいる。

問 新たな自主財源確保とし

て公募制の導入を検討してもらいたい

か。

答 新庁舎では子ども連れが多く見込まれる2階に自動販売機コーナーを設ける予定である。

公募性については、減収や入札参加者がいないケースも想定されるため、すべて入札で行うのは難しいと考えるが、導入した他市の結果を踏まえながら今後検討していきたい。

編集後記

◆第45回衆議院選挙が終わり、「政権交代」が起こりました。民主党を中心とした政権がスタートして約2ヶ月が経とうとしています。世の中でよく言われる「変えなくてはいけない物を変える勇気」と、変えてはいけない物を守る続ける冷静さのバランスの取り方が大変難しい世の中であるだけに、今後の様々な取り組みに大いなる期待を抱く今です。そうした時に、いつも昔になるのが「説明責任(アカウントビリティ)」という言葉です。私達地方議会の議員にとつても、この「説明責任」という言葉が持つその重さや大きさは、かなりのものがあります。◆同じように議会の中で、議員と「対峙」する立場にある「理事者側(当局とも言う)も同じ責務を負っている」と思います。それだけに、「難しい事をやさしく、やさしい事を面

白く、面白い事を深く、深い事をまじめに」と思うのは、私だけではないと思います。そして、こうした思いがあるだけに心して取り組みたのが、「目で見てわかる方法」の導入です。言い換えれば、いかにして聴いてみる方々の目に訴え、理解と協力を得る」かだと思